

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（1月25日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま} 鹿児島県立奄
^{み としよかん} 美図書館です。

今朝は、^{あまみとしよかん} 奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは、一般書のご案内です。

新しい年が始まり、今年こそは「ダイエットしよう」「禁煙しよう」など新年の目標をたてた方もいらっしゃると思いますが、今日は特別だからと、既に三日坊主に終わっていませんか。経済学者であるイアン・エアーズさんの『ヤル気の科学』では、人が目標を達成できない理由として、生物は長期的な利益よりも短期的な誘惑に極端に弱いからであるとしています。この本は、系統的、実証的に裏付ける行動経済学や心理学の各種の成果から、自分の目標を実現するための現実的な手法を導きだせる本となっています。誰もが思い当たるような具体的事例が沢山掲載されており、読んでいて納得できる1冊です。

^{ほしのひろみ} 星野博美さんの『島へ免許を取りに行く』を紹介します。

相次ぐ人間関係のトラブルに追い打ちをかけるようにかわいがっていた猫を亡くし、精神的に追い詰められた著者が、「何かまったく新しいことに挑んで、余計なことをくよくよ考える暇もないほど疲れたい。」と40代にして自動車の運転免許を取ろうと決意。分からないことだらけの運転に悪戦苦闘する様子や自動車学校の個性豊かな職員、生徒たちとのやりとりを軽快な文体とユーモアあふれる語り口で綴っています。

次は、児童書をご案内しましょう。

^{うちだりんたろう} 内田麟太郎さん作の『ぽにより ぽにより』です。この絵本は、東日本大震災の被災者の子どもたちを本で励まそうという思いの作家たちによって生まれた童話集『希望がわく 童話集 白いガーベラ』を絵本化したものです。「タヌキのおじさんが、ぽにより ぽによりと あるいていると……。いがぐりが へこぽん へこぽんと あるいてきました。」と始まり、擬声語を用いて不思議な世界が描かれています。また、落語家の林家木久扇^{はやし やき く おう}さんの絵もユニークで、読んでいて、とても楽しい気持ちになれる本です。

「かんぱい！」シリーズで有名な宮川ひろさんの『0 てんにかんぱい！』は勇気の出る

一冊です。

小学校3年生の哲男^{てつお}は、学校のテストでいい点を取れないと落ち込みます。算数のテストで61点の哲夫。おかあさんの顔がうかんでため息がでます。友だちの明^{あきら}は国語のテストで20点。ふたりが相談した植木屋のおじさんは、子どもの頃「0てんにかんぱいした」というのです！？それに「かあちゃん病」という病気があると。おじさんは、そんな哲男に元気をくれます。学校の勉強がよくできないと、子どもを認めない。母親は、そういう病気になるんだと……。そうした「かあちゃん病」の対策も教えてくれます。読んでいくと勇気がわいてくる素敵な本です。ぜひ、親子で読んでみてください。

最後は郷土に関する本のご案内です。

和泊町出身の先田光演^{さきだみつるぶ}さんの『奄美諸島の砂糖政策と倒幕資金』は、明治維新の中核を担った薩摩藩の財源のなかで、奄美諸島から得た黒糖の重要性を初めて諸史料を分析して解き明かしています。これまで黒糖が維新の原動力になったことは、当たり前のことと認識されてきました。しかし、体系的に史料を研究した論考はありませんでした。そのことでも、幕末から明治初期の日本近代史研究に確固とした道筋^{ひら}を拓くものとなっています。

寒さが厳しくなりました。ぜひ、図書館にきて読書で心から暖まってください。

かごしまけんりつあまみとしよかん
鹿児島県立奄美図書館でした。